

事業シート（概要説明書）

事業名	陶芸施設管理運営事業 (加茂町まなび館)		担当部名	生涯学習部		
			担当課名	生涯学習課		
事業年度	開始年度：平成14年度		終了年度：			
総合計画での位置付け	-3-1 生涯学習環境の整備					
根拠法令等	社会教育法					
実施方法	直接実施	委託	指定管理	補助金	その他	
	実施主体・委託先等					
事業概要	目的 (何のために)	生涯学習の推進を目的として市民に活動の場を提供するとともに、もって福祉の向上を図るため				
	対象 (誰・何を対象に)	一般市民				
	事業内容 (手段、手法など)	昭和53年度に加茂町老人憩いの家「めぐみ荘」として建築された施設を平成14年度に改修して、生涯学習施設「まなび館」として運用開始。常駐職員のいない無人施設であり、施錠により管理を行っている。 主に、陶芸や日本画教室で使用している。施設使用料は無料である。 館内・周辺清掃は業者に委託せず、利用者で実施している。(年1~2回大掃除)				
	事業の必要性	加茂町まなび館は、加茂地域における唯一の陶芸のできる社会教育施設であり、隣接の陶芸窯棟には、陶芸用石油窯を設置している。 市内には、津山市東部に勝北、北部に加茂、西部に久米の陶芸施設があり、それぞれ地域に根付いた特色ある活動をしており、その存在意義は大きい。				
		(円)	H20決算	H21決算	H22決算	H23予算
事業費	報酬(嘱託・臨時職員含む)					
	賃金					9,000
	報償費					
	旅費					
	需用費	123,000	72,000	124,000	148,000	
	役務費				10,000	
	委託料					
	負担金、補助及び交付金					
	扶助費					
	その他					
合計	123,000	72,000	124,000	167,000		
事業費の 財源内訳	国・県からの補助金等					
	地方債					
	その他(事業収入等)					
	一般財源	123,000	72,000	124,000	167,000	
合計	123,000	72,000	124,000	167,000		
人件費 (正規職員)	従事者数(平均給与750万円換算)	0.005	0.005	0.005	0.005	
	概算人件費	38,000	38,000	38,000	38,000	
総事業費(+)		161,000	110,000	162,000	205,000	

事業シート（概要説明書）

事業シート（概要説明書）					
事業目的達成のための活動指標	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	利用人数	人	689	379	700
	利用回数	回	146	81	150
単位当りコスト	1人当たり 平成21年度160円				
	平成22年度427円				
目指す成果 (今後どのようにしたいか)	利用者増加及び利用回数増加に向けて改善し、身近な使用しやすい社会教育施設にしていきたい。				
事業の自己評価	事業目的の達成状況	利用者は約700人、利用回数が例年100回以上である。(平成22年度については、陶芸窯故障のため、利用回数が減っている。同年度に、石油陶芸窯を買い替えた。)			
	今後の事業の方向性 (課題・改善計画等)	<p>現在のまなび館は、空き施設の有効利用として旧めぐみ荘を一部改修して運用してきた。当施設の管理費は、年200千円程度であり、管理費としてはかなり低予算で運営している。</p> <p>また、利用者には、高齢者、障がい者も含まれており、立地的にも加茂地域内施設が必要と考える。</p> <p>今後も限られた予算の範囲内で施設などを管理・改善していき、利用団体の拡充、陶芸作品展の開催、陶芸教室の開催など事業をさらに拡大・充実させ、加茂地域における使用しやすい身近な社会教育施設となるよう努めていきたい。</p>			
自己評価	<p>拡大・充実 現状のまま継続 効率化又は改善が必要 統合・縮小 廃止</p> <p>現状のまま継続するが、利用団体の拡充、作品展の開催、陶芸教室の開催など事業を活性化させていきたい。</p>				
特記事項 (事業の沿革等) (他都市との比較等)	<p>【施設及び運用について】</p> <p>昭和53年度に加茂町老人憩いの家「めぐみ荘」として建築された施設を平成14年度に改修して、生涯学習施設「まなび館」として運用開始。同敷地内に別棟の陶芸室(陶芸窯用施設)を有し、電気代は両施設ともまなび館で管理している。敷地面積479.33㎡、建築面積384.1㎡(鉄骨造2階)、1階面積264.9㎡、陶芸室建築面積(陶芸窯用施設、鉄骨造)12.96㎡であり、手ろくろ15台を設置している。</p> <p>施錠により管理を行っており、使用者が事前に使用申請し、カギを加茂支所より借りて使用し、使用後は速やかにカギを返却する。なお、使用した灯油(窯焼きに使用)は、使用者が満タンにし、室内の清掃等は、利用者が行うこととしている。</p>				

事業シート（概要説明書）

事業名	陶芸施設管理運営事業 (久米ふれあい陶芸センター)		担当部名	生涯学習部		
			担当課名	生涯学習課		
事業年度	開始年度：平成11年度 終了年度：未定					
総合計画での位置付け	-3-1 生涯学習環境の整備					
根拠法令等	社会教育法					
実施方法	直接実施	委託	指定管理	補助金	その他	
	実施主体・委託先等					
事業概要	目的 (何のために)	体験学習を通して心がふれあう明るい地域社会を実現し、市民相互のふれあいと陶芸の振興を図り、生涯学習の場を提供するため				
	対象 (誰・何を対象に)	一般市民				
	事業内容 (手段、手法など)	<p>大井保育所跡を利用し、平成11年度に久米ふれあい陶芸センターとして運用開始。利用者を一班約9人の3班に分け陶芸教室を開催している。活動日は、1班第1月曜日、2班第1土曜日、3班第2日曜日、指導者は2人。また、格致大学(高齢者大学)においても陶芸教室を毎月1回第2水曜日に開催している。</p> <p>さらには、毎年、小学校の体験学習も行っており、高齢者の生きがいづくりや体験学習の場となっている。</p> <p>陶芸窯の利用料は、一人一回当たり500円を徴収。粘土代は利用者の個人負担としている。また、重さに応じた焼き上げ料を徴収しているため、受益者負担にも相応している。</p>				
	事業の必要性	<p>久米地域に陶芸施設は他になく、陶芸教室を通じて、高齢者の生きがいづくりの場になっている。また、高齢者だけではなく、小学校の陶芸体験学習の場でもあり、子どもから高齢者まで、幅広い世代の方が利用している。陶芸活動を通じて、市民の交流も深まり、共通の学びをすることによって、市民の方が楽しく過ごし、充実した日々が送られている。久米地域にある唯一の陶芸施設としての存在価値は高く今後も事業拡大を目指したい。</p>				
		(円)	H20決算	H21決算	H22決算	H23予算
事業費	報酬(嘱託・臨時職員含む)					
	賃金		19,000			
	報償費		220,000	207,000	216,000	216,000
	旅費					
	需用費		681,000	618,000	625,000	669,000
	役務費		51,000	71,000	51,000	75,000
	委託料		27,000	28,000	28,000	29,000
	負担金、補助及び交付金					
	扶助費					
	その他					
合計		998,000	924,000	920,000	989,000	
事業費の財源内訳	国・県からの補助金等					
	地方債					
	その他(事業収入等)		513,000	414,000	492,000	500,000
	一般財源		485,000	510,000	428,000	489,000
合計		998,000	924,000	920,000	989,000	
人件費 (正規職員)	従事者数(平均給与750万円換算)		0.005	0.005	0.005	0.005
	概算人件費		38,000	38,000	38,000	38,000
総事業費(+)			1,036,000	962,000	958,000	1,027,000

事業シート（概要説明書）

事業シート（概要説明書）					
事業目的達成のための活動指標	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	利用人数(陶芸棟のみ)	人	218	222	270
	利用回数(陶芸棟のみ)	回	35	36	40
単位当たりコスト	1人当たり 平成21年度4,413円(一般財源2,514円)				
	平成22年度4,315円(一般財源2,099円)				
	ふれあいセンターの光熱水費等も含む				
目指す成果 (今後どのようにしたいか)	幅広い世代の市民の方及び近隣市町村の方に利用してもらい、お互いに共通の学び、生涯学習の場として楽しく活動できる施設を目指す。また、陶芸作品を各種文化祭に出品し多くの市民に活動を紹介し、地域の活性化及び施設利用促進を目指したい。今後は、陶芸教室の生徒が学んだことを指導者となって還元できるように努めたい。				
事業の自己評価	事業目的の達成状況	利用者の学習意欲も高く、ふれあい学習館(生涯学習施設)及び久米地域文化祭等へ出品することで、作品の展示効果や広報つやま等での紹介により利用者も増加しつつある。			
	今後の事業の方向性 (課題・改善計画等)	<p>【課題】 施設のさらなる利用を促進するため、現在の久米地域を中心とした利用から、旧津山市内も含めた津山市全体及び近隣市町村に向けた広報活動を行い、利用者の獲得につなげることが課題である。</p> <p>【改善計画】 利用者の拡大のため、隣接市町村へ訪問PR 放課後子ども教室での陶芸教室の開催 地域の小学校への訪問PRと小学生陶芸教室の開催 ふれあい学習館(5館、生涯学習施設)でのPR ホームページの充実を実施していきたい。</p>			
自己評価	<p>拡大・充実 現状のまま継続 効率化又は改善が必要 統合・縮小 廃止</p> <p>現状のまま継続であるが、さらに多くの陶芸教室の作品を各地区での文化祭などに出品して、地域の文化交流の活性化を図りたい。また、当施設で、子どもから大人までの各世代間の交流も行い、事業を充実させていきたい。</p>				
特記事項 (事業の沿革等) (他都市との比較等)	<p>【施設について】 平成11年9月完成、建築面積220.16㎡、木造平屋建、陶芸棟の中には、本焼用電気釜1台・電動ろくろ5台、手ろくろ22台等が完備されている。 今後、ますます高齢化が進む久米地域で、高齢者が関心をもち、生きがいつくりのきっかけとなる陶芸活動は重要な役割を果たしている。また、子どもの陶芸体験活動の場としても本施設は大切な施設である。</p>				

事業シート（概要説明書）

事業名	陶芸施設管理運営事業 (勝北陶芸の里工房)				担当部名	生涯学習部
					担当課名	生涯学習課
事業年度	開始年度：平成8年11月		終了年度：			
総合計画での位置付け	-3-1 生涯学習環境の整備					
根拠法令等	社会教育法					
実施方法	直接実施	委託	指定管理	補助金	その他	
	実施主体・委託先等					
事業概要	目的 (何のために)	陶芸の振興を図り、地域の工芸技術の向上に寄与するとともに、生涯学習及び青少年健全育成の場を提供するため				
	対象 (誰・何を対象に)	市内外の一般市民				
	事業内容 (手段、手法など)	<p>本施設は、中世の窯跡(甲田池窯跡)の地に立ち、専任の指導員(岡山県重要無形文化財保持者:山本雄一氏に師事)を置き、県内公的施設最大級の登り窯を使用し、本格的に陶芸ができる県北唯一の陶芸施設である。月曜を除く、平日は、午後1時から8時、土・日・祝は午前9時から午後7時まで開館し、幅広い年代の市民や県内外の陶芸愛好家が気軽に陶芸を楽しみ、技術の向上を図れる交流の場となっている。</p> <p>施設利用料 市内500円 市外1000円(体験学習等は減免規定あり) 粘土焼上代 電気釜700円(粘土600g) 登窯1500円(粘土600g)等粘土量により追加</p>				
	事業の必要性	<p>本施設は、岡山県の「県境町村等振興事業」の指定を受け、ふるさと伝統工芸の復活のために平成8年に建設された施設である。地元の津山市杉宮の粘土と備前の粘土をブレンドし、指導者山本雄一氏と杉宮の出会いから『雄杉焼(ゆうさんやき)』と名づけられている。この名のもと市民の陶芸愛好者と専任の陶芸指導員とで市民参画の協働的運営がおこなわれ、コスト削減にも努めている。</p> <p>また、老若男女が幅広く陶芸に親しみ、ストレスの多い現代社会において、失われた日本人の豊かな心をとりもどすための癒しの空間として、また、市民の主体的な文化活動の場として知られている。古来からの伝統的な薪を焚く登り窯を備えた公共の施設は、県北には他になく、今後も協働的運営によりさらなる拡充を目指したい。</p>				
		(円)	H20決算	H21決算	H22決算	H23予算
事業費	報酬(嘱託・臨時職員含む)		3,750,000	3,700,000	3,700,000	3,648,000
	賃金		1,063,000	956,000	995,000	1,100,000
	報償費					
	旅費					
	需用費		1,760,000	1,656,000	1,513,000	1,863,000
	役務費		58,000	60,000	70,000	64,000
	委託料		5,000	5,000	5,000	5,000
	負担金、補助及び交付金					
	扶助費					
	その他		575,000	553,000	584,000	563,000
合計		7,211,000	6,930,000	6,867,000	7,243,000	
事業費の財源内訳	国・県からの補助金等					
	地方債					
	その他(事業収入等)		2,068,000	2,199,000	2,059,000	2,500,000
	一般財源		5,143,000	4,731,000	4,808,000	4,743,000
合計		7,211,000	6,930,000	6,867,000	7,243,000	
人件費 (正規職員)	従事者数(平均給与750万円換算)		0.01	0.01	0.01	0.01
	概算人件費		75,000	75,000	75,000	75,000
総事業費(+)			7,286,000	7,005,000	6,942,000	7,318,000

事業シート（概要説明書）

事業シート（概要説明書）					
事業目的達成のための活動指標	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	利用人数	人	993	1,043	1,200
単位当たりコスト	1人あたり 平成21年度 7,054円（一般財源4,840円）				
	平成22年度 6,656円（一般財源4,682円）				
	（市内小中高校生は、使用料無料 粘土代のみ）				
目指す成果 （今後どのようにしたいか）	1. 的確な広告宣伝と市民への周知 2. 観光とのタイアップで津山市での陶芸体験ツアーの開催 3. 津山市内小・中・高校に対する陶芸教室の利用拡大 4. 陶芸教室の定期的な開催などを実施し、利用者数及び事業収入の増加を図り、より充実した生涯学習施設を目指したい。				
事業の自己評価	事業目的の達成状況	陶芸教室については、勝北地区だけでなく、近隣の小学校の利用も少しずつ増えている。また、施設外で「ちびっこ陶芸教室」などを開催し、市民に広めるよう努力している。勝北陶芸の里工房の利用者から、岡山県美術展などへの出品もある。 市民の文化の意識を高め、生き生きとした生活の実現をめざす生涯学習施設としての役割を果たしている。			
	今後の事業の方向性 （課題・改善計画等）	【改善計画】 利用者の拡大と事業の充実 市民へのPRの強化と利用の促進（陶芸展の開催・ホームページの作成・メディアへの広告・広報活動） 新規の利用者の拡大のため、親子陶芸教室、一日体験教室、団体教室等を開催する より充実した魅力ある施設にするため、利用者アンケートの実施と要望の実現 作陶技術の向上と支援 初級・中級・上級等各種専門技能習得教室の開催 登り窯施設の活用 見学施設としても活用。薪窯焼成講座の開催と作品展示等の充実			
自己評価	拡大・充実 現状のまま継続 効率化又は改善が必要 統合・縮小 廃止 現状のまま継続であるが、施設をPRし、広く利用していただけるように、勝北陶芸の里の利用促進に努めたい。				
特記事項 （事業の沿革等） （他都市との比較等）	【施設について】 建築面積360㎡、工房・事務所（木造平屋建）210.46㎡、登り窯（鉄骨平屋建）66.66㎡、置場45.37㎡で、電気窯1基、電気ろくろ12台、手ろくろ50台等を設置している。 【運営状況】 勝北陶芸の里は、岡山県北で随一の登り窯を有する施設であり、県北の陶芸文化を象徴し、美作陶好会の本拠地として、全国的にも稀な公的陶芸施設である。年間1,000人以上が利用し、市民との理想的な協働的運営がなされており、利用者によって、広大な敷地の草刈や、施設の清掃・修繕等がおこなわれている。 【他都市の運営状況】 他都市の指定管理制度が導入された陶芸施設では、委託料のほとんどが人件費や施設管理費に費やされ、事業収入は僅かである。陶芸経験の少ない職員により運営がなされているため、利用者の減少に繋がっている。また、陶芸の知識が乏しいことにより、適切な施設管理・運営ができず、施設の急激な老朽化に歯止めがかかっていないものも見受けられる。				